

## ファッションで浜松の街へ旅立とう!

今夏公開のレオナルド・ディカプリオ主演の話題作「華麗なるギャッツビー」。この映画の舞台は、第1次大戦後の好景気に沸いた1920年代のアメリカ。アメリカが最も光り輝いたこの時代を、F・スコット・フィッツジェラルドが描いたアメリカ文学の代表作品だ。

この時代はまた、パリではココ・シャネルが生まれ、今に通じるファッションが大きく花開いた時でもある。ギャッツビーが生涯をかけて恋い焦がれるヒロイン、美しい上流階級の娘デイジーはじめ女たちの、さんざめく笑いと共に揺れるフリンジにミニスカート…これもまた、この映画の見所である。

思えば、私は幼い頃からどこか知らない街へ出かけるのが好きで、身軽な学生時代にはお小遣いを貯めてはバックパックを担いで、旅を楽しんできた。時には、映画のなかで息を飲むような美しい風景や心を打たれるシーンに出会うと、いてもたってもいられなくなり、インドの雑踏や、蒼い朝もやの中のパリの石畳を求めて、映画館を出たその足で、フライトチケットを取りに旅行会社へ向かったものだった。

そんな私が心惹かれながらも未だ足を踏み入れずにいるのが…このギャッツビーの舞台、ニューヨーク! 映画を観終わった頃にはきっと、ひそかに旅の計画でも立てているんじゃないかと思う。

話は変わるが、仕事柄、旅の気分を盛り上げるためにファッションというスパイスは欠かせない。行き先へのチケットと旅の本を買いこんだら…次は、その街に似合う服探し! その街をどんな恰好で佇むか…ファッション好きな女性には重要懸案なのである。

つくづく、女性は幸せな生き物だなあと思う。だって、パンツでもスカートでも、女性のファッションには制約がないからだ。そして時には、旅なんかしなくたってファッションで世界を旅した気分になったり、映画のヒロインになることもできる。浜松の街角でだって、パンツスーツでニューヨーカーのように颯爽とキメられるし、時にはデイジーにだって、なれる。

私はいつも「浜松の女性みんなが、好きなおしゃれをして笑顔いっぱい街を歩いて欲しい!」と思って店頭で立っている。夢は、「浜松の街へ来る時はこんな恰好で!」と女性たちがイメージするくらいに、浜松がファッションの街、そして旅をしたくなるような素敵な街になること! 今の浜松の街を思えばずいぶんと壮大な夢? でも私は実現する未来とあって、本気で心に描いて、そして楽しみにもしている。

最後に、この夏私はどこへ旅に出るかといえば、ギャッツビーの夢描いたアメリカ…はまだ少し先に置き、屋久島へのトレッキングを計画している。

その時の恰好は…やはり屋久島のヒロイン「もののけ姫」なんだろうか?!



佐々木まり子

香町のレディースブティック「Sun Marry」オーナー。Sun Marryは、お客様は3歳から100歳、取扱いブランドは50以上という幅広いバリエーションを持つセレクトブティック。最近では自ら企画したガールズハット「ブティマリー」を全国に向けて通販展開している。おしゃれのお手伝いで、関わるすべての女性をより素敵にして、最高の笑顔を引き出したい!と日々奮闘中。